



2023



旧年中は、弊社商品をご愛用いただきまして誠にありがとうございました。
 本年も界面活性剤をはじめとした管理資材や技術力で、
 ターフメンテナンスのサポートに努めてまいりますので
 より一層のご支援、お引き立てを賜りますようお願い申し上げます。



1月・2月の管理ポイント

グリーンシナジー

液肥とのタンクミックスに

近年は非常に乾燥した冬が続いています。冬の乾燥害は春や夏に比べて目立たないため軽視されがちですが、冬の乾燥により発生した撥水性土壌はトップシーズンにドライスポットが発生する最大の原因になっています。また冬の乾燥により、春のコウライの立ち上がりが遅くなることも問題になっています。

グリーンシナジーは様々な資材と相性がよく、タンクミックスしやすい界面活性剤です。肥料、ミネラル、糖、アミノ酸などと混用すれば、水と一緒に根圏の隅々まで行き渡ることによって利用効率が上がり肥料ムラを防ぎます。経済的な資材なので、散布の度にご使用頂けます。冬季にも定期的な予防散布による乾燥対策を行いましょう。

使用量：1~2ml/m²/月 散布水量：100ml~1ℓ/m² 使用方法：資材の散布時にタンクミックス



自然な色調の着色剤

カラーメイトNEO M・D

カラーメイトNEOは、季節感を重視した自然な色調に仕上がる着色剤です。耐光性の高い顔料の粒子が鮮やかな緑色を演出し、耐水性の高い樹脂が色落ちを軽減します。色調の好みや目的によりM(明るい緑)とD(暗い緑)の2色から選ぶことが出来ます。地温・葉温を上昇させることにより、春季の立ち上がりを促進します。

使用量：2ml/m² 希釈倍率：50~100倍 散布水量：100~200ml/m²



冬季のサッチの除去
土壌微生物の健全化

サッチ・マネージャーW ウィンター

本剤は自然界に存在する微生物の中からサッチ成分に対して優れた分解能力があり、低温期でも活性の高い有用菌を選抜した微生物資材です。低温期のサッチ分解能力が高く、春期の気温が上がる時期までにゆっくりとサッチを分解します。

使用量：グリーン. 0.25~0.5g/m² 散布水量0.2~0.5ℓ/m²



池の水をきれいなブルーに

ワラーブルーL

池がきれいなブルーになりコースの景観が良くなります。ワラーブルーLに含まれる2種類の色素で、水生植物(アオコなど)の光合成に必要な光(430nm, 630nm)を遮り、増殖を抑えます。増殖が始まる前からの使用が効果的です。安全性の高い食用色素を使用しているため、着色した池の水を芝生への散水や薬剤散布にも利用できます。

使用量：500ml/水500トン



池の水質改善に

セラクリーン

セラクリーンは、池に散布することで水中の悪臭原因物質を吸着し拡散を防ぎます。またカルシウム等のミネラル分をゆっくりと放出して水質の悪化(酸性化)を防ぐことで、池の水質浄化に優れた効果を発揮します。即効性の粉タイプと遅効性の顆粒タイプがあります。気温が低く微生物やアオコなどの活性が低い冬の間から、池の水質改善を行いましょう。池の掃除後の使用も効果的です。

使用量：5~10袋(100~200kg)/1,000m² 5~10袋(100~200kg)/水1,000トン

冬になり休眠期を迎えるとコウライシバ等の暖地型芝草は退色していきませんが、コースの景観を保つために着色剤が使われます。昨年中に2度目の散布を行ったコースも多いのではないのでしょうか？
今回は着色剤の効果的な使用方法と、表面温度を上昇させる効果について紹介します。

着色剤の効果的な使用方法

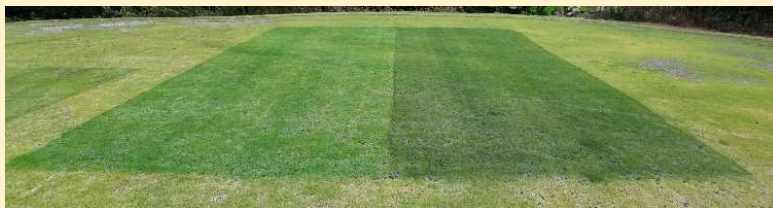
コウライシバに2色の着色剤(明色と暗色)を散布し、色の乗りを観察しました。

▼重ね塗りすることで色の乗りがよくなります！

初回散布 2022年11月



2回目散布 2022年12月



退色前から着色を開始することで、鮮やかな緑に仕上がります。

散布回数を重ねるごとに、発色がより鮮やかになります。
1か月間隔での重ね塗りがお勧めです。

▼退色が始まる前に初回の散布を行いましょう！

退色したコウライシバに着色した様子(12月)



色の乗りが悪く着色した箇所が目立ちません。
休眠期に入る前から着色を開始しましょう。

着色前後の葉を観察

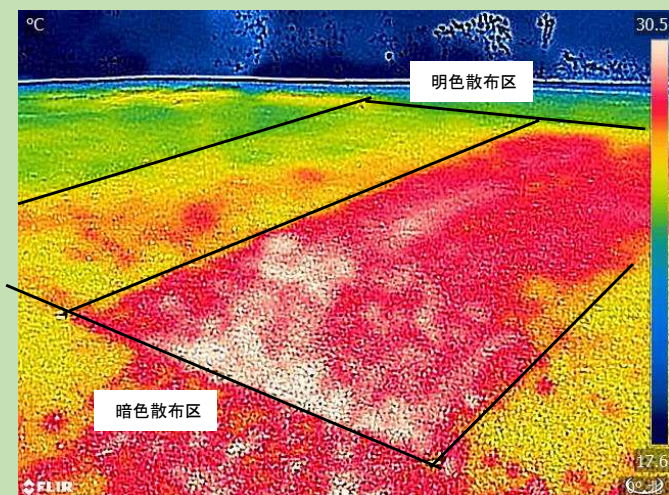
着色前

着色後



退色後に着色しても、枯死した葉の白色が目立ち、着色効果が落ちてしまいます

表面温度を上昇させる効果



◀ 着色した区画の表面温度が上がりやすくなります！

着色した区画をサーモグラフィーカメラ(FLIR社製)で観察しました。着色剤の顔料が日光の熱を吸収するため、表面温度が上がりやすくなります。特に暗色の着色剤を散布した区画の表面温度が高くなっているのがわかります。

表面温度が上がりやすくなることで
「葉が退色する時期が遅くなり、光合成できる期間が長くなることで貯蔵養分が増える」
「霜や氷が溶けやすくなる」
「春の立ち上がりを促進できる」
などの効果が期待できます。

コウライシバなどの暖地型芝草が冬季に退色するのは、気温が下がることが原因です。気温が下がると光合成に関わる酵素の活性が低下するため過剰な光エネルギーが増えてストレスとなり、葉緑体が崩壊して芝の色が抜けていきます。表面温度が上昇すると光合成できる期間が長くなるため、退色が遅くなる、春の立ち上がりが早くなるといった効果が期待できます。

コースの景観、コンディション維持のためにも着色剤を計画的に使用していきましょう！